

調査団報告書

調査No.48

調査内容

名古屋城といえば、お堀の鹿が隠れた人気者ですよ。実は江戸時代にもお堀に鹿がいたとか。なにか記録はありますか？

調査手順

江戸時代の名古屋城に鹿ですか？さて、何を調べたらよいのやら…。まずは、昭和34年に出された『名古屋城史』を見てみましょうか。ありませんねえ。そうだ、江戸時代の名古屋城の記録なら、尾張藩士奥村得義・定おくむらかつよし さだめが編集した「名古屋城百科事典」ともいべき資料『金城温古録きんじょうおんころうく』がありますね。『名古屋叢書続編 13-16 巻』に収められている活字化された『金城温古録』の索引を引いてみましょう。索引に鹿はないようです。では、各巻の目録を順に確認してみましょうか。

調査結果

中を確認していったら、ありました！『名古屋叢書続編 第15巻』P.92「御飼鹿」の項目です。「御屋形向ひの空堀に、数年鹿をはなし有之。…」と書かれています。どうやら、『蓬左旧記 上』からの引用のようです。『金城温古録』の原本では第三十六之冊二之丸編五搦手きんじょうおんころうく(からめて)部にあたります。『蓬左旧記』原本では16丁オ-16丁ウです。どちらの原本も、「なごやコレクション」としてインターネットで公開していますので、名古屋市図書館のホームページで見いただけます。

今回の調査で使った資料

『名古屋叢書続編 第13巻～16巻・21巻(索引)』

名古屋市教育員会/編 愛知県郷土資料刊行会 1984

『金城温古録』 市 13-240-31

『蓬左旧記』 市 13-214

『名古屋城史』 名古屋市/編 名古屋市役所 1969 (該当項目はなし)



作成：名古屋市図書館 名古屋なんでも調査団